

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：32694

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370606

研究課題名(和文) 日本語能力試験における点字冊子試験のユニバーサル化に向けた基礎的研究

研究課題名(英文) Basic Research on the Universally Designed Japanese Language Proficiency Test in Braille

研究代表者

秋元 美晴 (AKIMOTO, MIHARU)

恵泉女学園大学・人文学部・教授

研究者番号：20212441

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本語能力試験点字冊子試験のユニバーサルアクセス化を目的とした研究である。視覚に障害のある学習者への日本語教育現場の環境整備に着手し、日本語能力試験受験までの学習プロセスを支援した。本研究の成果として、視覚障害教育への知識を持たない晴眼の日本語教師のための、授業支援マニュアルを作成した。同マニュアルはウェブサイト『さわって、きいて、あじわう日本語』にて公開している。

研究成果の概要(英文)：This study aims at the universal access of the Japanese Language Proficiency Test Braille booklet test. We embarked on the environmental improvement of Japanese language education to learners who are visually impaired, and support the learning process until they take the Japanese Language Proficiency Test exam. As a result of this study, we have created a tuition assistance manual for the sighted Japanese teachers who do not have the knowledge of the education for the visually impaired. The manual web site "to touch, hear, taste Japanese" has been opened to the public.

研究分野：日本語学、日本語教育学

キーワード：視覚障害 点字 ユニバーサルデザイン 日本語教育 日本語能力試験

1. 研究開始当初の背景

本研究の対象である日本語能力試験は、日本語非母語話者の日本語力を測定することを目的とした試験である。2014年度には、世界67の国と地域で実施され、受験者は年間約70万人に上る。日本の出入国管理上の優遇制度でのポイント付与や就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定試験の対象試験としても認定されており、社会的にも重要な役割を担う試験である。

同試験では、あらゆる受験者に公平に受験の機会を提供することができるよう、特別な配慮を要する受験者に向けて、受験特別措置の制度も設けている。特別措置の対象は、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、発達障害をはじめ、個々の状況に応じて多岐にわたり、試験主催団体（国際交流基金、日本国際教育支援協会）が申請内容に基づき、専門家による審議を経て、実施上可能な限り個々の事情に応じた措置を講じてきた。

本研究の開始当初の目的は、受験特別措置の一つである「点字冊子試験」による日本語能力測定の信頼性を検証し、必要に応じて改善すること、および、点字冊子試験の認知度を高め、より多くの日本語学習者の学習に資することであった。しかしながら、研究を進める中で、試験以前に、教材不足や、障害者への教育に知識と経験を持つ教師の不在により、日本語を学ぶこと自体が困難であるという現状が明らかになった。そこで、これらに対する現状の記述と、教育支援の土壌を作ることと喫緊の課題と捉え、本研究の主題とすることとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本語能力試験へのユニバーサルアクセス化を見据え、視覚に障害をもつ日本語学習者への日本語教育現場の実態を把握し、教育環境整備に着手することとした。具体的には、世界各国で、視覚に障害のある学習者と、その学習者に教える教師が何を必要としているかを把握し、必要な支援を行うことを目指した。

3. 研究の方法

3-1 視覚障害学習者への日本語教育の実態把握

視覚に障害のある日本語学習者の所在を把握するために、質問紙調査を行った。調査協力者は国際交流基金事務所（19か国）および、青年海外協力隊日本語教師である。本調査に対して34件の回答があり、10件の視覚障害教育に関わる情報が得られた。その後、上記の調査で情報提供のあった協力者を含め、視覚に障害のある学習者への日本語指導経験をもつ教師27名に対して、教授方法および教授上の困難さに関する質問紙調査を行った。

その結果、北米の一部地域を除き、障害教育についての相談先がなく、教材等も準備さ

れていない環境で、個々の教員が当事者である学習者とともに試行錯誤をしながら教育にあたっているという実態が明らかになった。また、教師らは、このような状況に対する不安や、個別対応をするための情報収集や教材準備等に負担を感じていることが明らかになった。

3-2 授業支援のための教師用ハンドブック作成

本研究の出発点は、日本語学習および日本語能力試験へのユニバーサルアクセス化を実現することである。しかし、現状では日本語教育を受ける場へのアクセスすら困難な場合があることが分かった。そこで、これらの課題を解決するための一つの取り組みとして、晴眼の日本語教師に向けた「視覚障害教育」に関わる情報の提供を行うこととした。

情報提供の手段として、授業支援のための三つのハンドブック（『さわる日本語』『きく日本語』『あじわう日本語』）を作成した。ハンドブックに掲載した内容は、視覚障害教育に関わる文献調査によって得られた情報、視覚障害学習者に対する日本語指導経験をもつ教師の実践報告、視覚に障害をもつ方へのインタビュー調査によって得られた当事者の声等によって構成されている。以下に、それぞれの概要を示す。

『さわる日本語』

点字を使用して学ぶ学習者への授業を支援するハンドブックである。

このハンドブックには、「視覚障害教育全体に共通するもの」と「学習者の個々の状況によるもの」に大別して、教員が把握しておくべき基本事項とサポートの内容を示した。「視覚障害教育全体に共通するもの」とは、視覚障害の種別、点字表記のルール、点字機器の情報等である。これらは視覚障害教育に関する先行研究を踏まえて記述した。「学習者の個々の状況によるもの」とは、学習者の障害の度合いと困難さの内容である。教員は学習者の特性を理解し、どのようなサポートを提供するかを十分に検討する必要がある。そのために必要とされるレディネス調査の視点とサポートの典型例を提示した。サポートの例は、教員が、実際に授業運営がしやすいように、一学期の授業の流れに沿って、レディネス調査、予習、復習と授業、試験とレポートの順に示した。

『きく日本語』

主として音声情報を媒体として学ぶ学習者への授業を支援するハンドブックである。

書籍における印刷文字やイラストなどの視覚情報を、聴覚情報に置き換えるための手段として、対面読み上げ、ICT機器を活用した合成音声による読み上げ、二次元バーコードを使用した音声付き教科書、デジタル図書等を取り上げ、これらの手段を日本語教育に

において活用することの可能性と方法を紹介した。また、筑波大学附属視覚特別支援学校（補習クラス）をはじめ、複数の教育機関での視覚障害学習者に対する日本語教育の事例を分析し、音声情報を中心とした教材作成の手順、教材作成時の留意点、授業時に配慮すべきこと、試験実施の方法などを示した。本ハンドブックでは、留意事項として、視覚情報を音声情報に置き換える際の情報の補い方や説明の順序、スクリーンリーダーで合成音声による読み上げを行うことを想定したテキストデータの作り方などにも言及している。

『あじわう日本語』

体験を通して学び、日本語学習や、日本での留学生生活をより豊かなものにするためのヒントを集めたハンドブックである。

通常の教育では学習者のニーズやレディネスを聞き取り、学習者の日常生活に引き付けた教育を行う。障害者教育でも同様であるはずだが、視覚障害学習者が日常生活の中で体験していることを、予備知識のない晴眼の日本語教師が聞き取り、理解して活用することは容易ではない。そこで、本研究では視覚に障害のある5名の方の協力を得て、日常生活や趣味、娯楽などについての聞き取りを行った。インタビュー協力者は日本語母語話者3名、非母語話者2名で、いずれも外国語学習経験をもち、宗教史研究者、英語教師、日本語教師志望の大学生、留学生と、属性も多様である。興味関心の対象も、スポーツ、旅行、博物館、食、音楽と多岐にわたり、日常のさまざまな体験についての知見を得ることができた。『あじわう日本語』では、日本語教師が学習者のレディネスや日常での体験を理解するための具体的な事例を示すとともに、視覚障害者の日常生活や娯楽を日本語学習環境と位置付け、社会参加へと結びつく学習項目の導入やアクティビティ等の実施方法を提案している。

4. 研究成果

本研究の最大の成果は、視覚に障害のある学習者に日本語を教える教師に向けた授業支援ハンドブックを作成したことである。点字を使用して学ぶ学習者に教えるための『さわる日本語』、音声情報を主たる媒体として学ぶ学習者に教えるための『きく日本語』、そして、さまざまな体験をし、学びをより豊かなものにするためのヒントを集めた『あじわう日本語』を作成した。ここには、視覚障害に対する知識をまったく持たない教師にも、教室のイメージができるよう、実際の教育現場の様子や指導案を多数掲載している。これらの研究成果は学会およびwebサイトにて広く公開している。本研究の成果により、障害の有無に関わらず一人でも多くの学習者に学びの可能性が広がることを期待する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

河住有希子, 浅野有里, 藤田恵, 秋元美晴, 北川幸子 (2016) 「日本語教育におけるインクルーシブ教育の実現に向けた一授業の提案 点字五十音図を素材として」 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.22(3), 60-61, 査読有

秋元美晴, 浅野有里, 河住有希子, 北川幸子, 藤田恵 (2016) 「視覚に障害をもつ日本語学習者を取りまく学習環境の現状と課題 授業を担当する教師を対象とした調査より」 『恵泉女学園大学紀要』 第28号, 143-155, 査読有

河住有希子, 秋元美晴, 藤田恵, 北川幸子, 浅野有里 (2015) 「視覚に障害をもつ日本語学習者の学びを支援するネットワークの構築に向けた基礎調査」 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.22(2), 6-7, 査読有

秋元美晴, 河住有希子, 藤田恵, 浅野有里 (2015) 「障害者の権利保障と日本語能力試験点字冊子試験の合理的配慮に関する一考察」 『恵泉女学園大学紀要』 第27号, 97-106, 査読有

藤田恵, 河住有希子, 秋元美晴 (2014) 「内容と用途に応じた点字冊子の留め具と綴じ方に関する一考察 - 日本語能力試験 (JLPT) 点字冊子試験の問題冊子を用いた触読調査から -」 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.21(2), 24-25, 査読有

秋元美晴, 河住有希子, 藤田恵 (2014) 「点字使用者の日本語学習に関する調査 - 日本語能力試験点字冊子試験受経験者の日本語学習 -」 『恵泉女学園大学紀要』 第26号, 283-294, 査読有

〔学会発表〕(計7件)

河住有希子, 浅野有里, 藤田恵, 秋元美晴, 北川幸子, 「日本語教育におけるインクルーシブ教育の実現に向けた一授業の提案 点字五十音図を素材として」, 日本語教育方法研究会第46回大会 (於: 国際交流基金), 2016年3月19日, 『日本語教育方法研究会誌』 Vol.22(3), 60-61

秋元美晴, 河住有希子, 藤田恵, 浅野有里, 北川幸子, 「聴覚情報を用いて日本語を学ぶ視覚障害学習者への学習支援 教師用ハンドブック『きく日本語』の作成」, 2015年度日本語教育学会秋季大会 (於: 沖縄国際大学), 2015年10月11日, 『2015年度日本語教育学会秋季大会予稿

集』,327-328

河住有希子,秋元美晴,藤田恵,北川幸子,浅野有里,「視覚に障害をもつ日本語学習者の学びを支援するネットワークの構築に向けた基礎調査」,日本語教育方法研究会第45回大会(於:立命館大学),2015年9月19日,『日本語教育方法研究会誌』Vol.22 No.2,6-7(日本語教育方法研究会奨励賞受賞)

藤田恵,河住有希子,秋元美晴,浅野有里,「インクルーシブ教育のための日本語教員用ハンドブック作成への試案-点字を使用する日本語学習者への学習支援-」,2015年度日本語教育学会春季大会(於:武蔵野大学),2015年5月31日,『2015年度日本語教育学会春季大会予稿集』,229-230

藤田恵,河住有希子,秋元美晴,「内容と用途に応じた点字冊子の留め具と綴じ方に関する一考察-日本語能力試験点字冊子試験の問題冊子を用いた触読調査から-」,第43回日本語教育方法研究会(於:藤女子大学),2014年9月6日,『日本語教育方法研究会誌』Vol.21(2),24-25

河住有希子,藤田恵,秋元美晴,「日本語能力試験点字冊子試験における合理的配慮の再考-改定新試験の理念に基づいて-」,日本語教育学会2014年度春季大会(於:創価大学),2014年6月1日,『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』,345-346

河住有希子,藤田恵,秋元美晴,「言語テストにおける視覚障害者受験特別措置実施の目的と方法-日本語能力試験点字冊子試験を例に-」,第17回日本語テスト学会(於:早稲田大学),2013年9月21日,『日本語テスト学会第17回全国研究大会発表要綱』,38

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
研究成果報告書
研究代表者 秋元美晴,『日本語能力試験における点字冊子試験のユニバーサル化に向けた基礎的研究』2016年3月31日
ホームページ
「さわって、きいて、あじわう日本語」
<https://plus.google.com/115106250954139434737> (2016年4月1日現在)

ホームページ掲載情報

- ・『さわる日本語』全文
- ・『きく日本語』全文
- ・『あじわう日本語』全文
- ・日本語能力試験点字冊子試験関連情報
- ・視覚障害学習者への授業アイデア
- ・学会、研究会等参加報告

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋元 美晴 (AKIMOTO, Miharuru)
恵泉女学園大学・人文学部・教授
研究者番号: 20212441

(2) 研究分担者

河住 有希子 (KAWASUMI, Yukiko)
日本工業大学・工学部・講師
研究者番号: 10605372

(3) 研究協力者

藤田 恵 (FUJITA, Megumi)
立教大学・ランゲージセンター・教育講師
研究者番号: 80606070

北川 幸子 (KITAGAWA, Sachiko)
京都外国語大学・国際言語平和研究所・研究員
研究者番号: 10550650

浅野 有里 (ASANO, Yuri)
日本国際教育支援協会・事業部日本語教育普及課・専門員
研究者番号: なし